

アメリカ合衆国

大統領 バラク・オバマ殿

アメリカの新しい核実験に抗議する

2012年1月10日

核戦争に反対する医師の会

代表世話人 児嶋 徹

中川武夫

山上紘志

アメリカ・エネルギー省の国家核安全保障局（NNSA）は、昨年11月16日にニューメキシコ州サンディア国立研究所で強力なエックス線を使って新型核実験を実施したと5日発表した。私たち人命を守る医師・歯科医師は、新しい核実験の実施に強く抗議するとともに、直ちに同実験を中止するよう求める。

今回の新型核実験は2010年11月から実施されているもので計4回目にあたる。通常の臨界前核実験は、地下核実験場で高性能火薬を爆発させて核分裂物質であるプルトニウムの反応を調べる。今回の新方式は、核実験場や火薬を使わず強力なエックス線を用いて核兵器の爆発時に近い状態を作り出して調べるという。NNSAは声明で「核実験を行わずに兵器の安全性を維持する」のが実験の目的と述べた。

しかし核実験を行わないとはいえ、今回の実験は核兵器の「使用・威嚇」の目的で行われたことに違いはない。世界はいま、核兵器廃絶に向けて大きく動いている。去年の11月には赤十字国際会議が「核兵器廃絶に向けた努力を」と題する決議を採択した。また12月には第66回国連総会で、核兵器禁止条約の交渉開始を求める決議が130カ国の賛成で採択されている。

オバマ政権は、「世界に核兵器が存在する限り核戦力を維持する」との方針を改め、核保有国を代表して核兵器廃絶の先頭に立つべきである。そのことは昨年、福島原発事故で放出されたばく大な放射線の不安に苦しむ日本国民および日本の医師・歯科医師の願いでもある。

以上